

CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(第3版)2019年版、名古屋中規模建築物環境性能評価システム2019 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)グランドメゾン覚王山堀割町	階数	地上10階地下1階
建設地	名古屋市千種区堀割町二丁目10番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	87 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2021年2月25日
敷地面積	1,307 m ²	作成者	
建築面積	807 m ²	確認日	
延床面積	3,673 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE2.3 ★★★★★★☆☆☆☆ ★:S:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B:★★ C: 	☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60%:30% 標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 62% ③上記+②以外の 62% ④上記+オフサイト手法 62% (kg-CO ₂ /年・m ²) 46 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.8 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.4
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.7 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 住宅供給のリーディングカンパニーとして住宅の長期にわたる良質さ(住まい心地、緑化、エコロジー、外観デザイン、経年美化、防犯性能、等々の多岐にわたる継続的な良質さ)を追求し、かつその実現を目指している。		
Q1 室内環境 界壁・界床の遮音性能を高め、設計住宅性能評価において住居の外皮性能は省エネ等級4を、一次エネルギー性能は一次エネ等級5を満たしている。	Q2 サービス性能 設計住宅性能評価において耐震等級2をみたしている	Q3 室外環境(敷地内) ・積極的に緑化を行っている ・自然石積の外構を施している
LR1 エネルギー ・住宅設計性能評価の省エネ等級4を満たしている ・住宅設計性能評価の一次エネ等級5を満たしている ・太陽光発電を採用している ・エネファームを採用している ・LED照明を採用している	LR2 資源・マテリアル ・ノンフロン発泡材を採用している ・F☆☆☆☆建材を採用している ・混合廃棄物の延べ床面積あたりの排出量の目標を10000 m ³ 以上: 8 kg/m ² 以下とし、それらの発生抑制に努める	LR3 敷地外環境 周辺道路に面して植栽帯を設け、町並み形成、都市の緑化に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)グランドメゾン覚王山堀割町

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル:

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。